

③ 作曲指揮専攻

作曲「芸術音楽コース」

入学試験科目

1. 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択）

【一般選抜(A日程)】

以下より1つ選択する。

- (1) 大学入学共通テスト 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択。「英語」は筆記とリスニングの双方を課す）
- (2) 本学が行う試験（英語）
- (3) 資格試験※

※以下のいずれかの資格を利用できる

詳細は④一般選抜概要 p. ii を参照のこと。

- ・ケンブリッジ英語検定
- ・実用英語技能検定
- ・GTEC(アセスメント版を除く)
- ・IELTS(Academic)
- ・TEAP
- ・TEAP CBT
- ・TOEFL iBT®

【一般選抜(B日程)】

調査書の評定を利用する（大学入学共通テスト等は利用しない）。

2. 楽典

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験に合格した者は、本入試での試験を免除する。

3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験に合格した者は、本入試での試験を免除する。

4. 聴音 旋律聴音（8小節程度）・・・ 各専攻共通1題および専攻別1題

和声聴音・・・大譜表による四声（密集）、8小節程度

[問題例] G dur ト長調 $\frac{2}{2}$ 拍子 8小節



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験に合格した者は、本入試での試験を免除する。

5. 副科実技（ピアノ）

※すべて暗譜で演奏すること

(1) 音階：同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。

ハノン No. 39、または本学指定の音階楽譜（本学ホームページよりダウンロード）のいずれかを使用すること。ハノン No. 39 の場合は、速度は♩=76 程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72 程度以上とする。

(2) J.S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲（プレリュードとフーガ）

(3) 自由曲1曲（自作品は不可）

※(2)(3)計2曲で10分以内とする。

6. 専攻実技

- (1) 和 声 (イ) 転調および非和声音を含むバス課題 (2時間)
(ロ) 転調および非和声音を含むソプラノ課題 (2時間)
- (2) 作 曲 与えられた動機による楽曲の創作 (5時間)
- (3) 面 接 10分程度 (作曲を志した動機等について質問します)

作曲「ミュージック・メディアコース」

※一般選抜（B日程）では、募集しません。

入学試験科目

1. 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択）

以下より1つ選択する。

- (1) 大学入学共通テスト 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択。「英語」は筆記とリスニングの双方を課す）
- (2) 本学が行う試験（英語）
- (3) 資格試験※

※以下のいずれかの資格を利用できる

詳細は①一般選抜概要 p. ii を参照のこと。

- ・ケンブリッジ英語検定
- ・実用英語技能検定
- ・GTEC(アセスメント版を除く)
- ・IELTS(Academic)
- ・TEAP
- ・TEAP CBT
- ・TOEFL iBT®

2. 楽 典

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験に合格した者は、本入試での試験を免除する。

3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験に合格した者は、本入試での試験を免除する。

4. 聴 音 旋律聴音（8小節程度）・・・ 各専攻共通1題および専攻別1題

和音聴音・・・・・・・・・ 高音部譜表による三和音、4小節程度

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験に合格した者は、本入試での試験を免除する。

5. 専攻課題

(1) 伴奏付け（譜面作成とそのピアノ演奏）

- ① 与えられた旋律に対して「伴奏／コード付け」を行う。
(1時間。譜面作成時、備え付けのキーボード使用可)
- ② ①で「伴奏／コード付け」した結果を、面接時にピアノで演奏する。

(2) 和声（2時間）

- ① 転調を含むバス課題。
- ② 簡単な転調および非和声音を含むソプラノ課題。
※①バス課題から着手のこと。試験開始後1時間で①の答案を回収する。

(3) 小論文（1時間）

当日出題される課題について、簡単な文章を書く。

(4) ピアノ演奏

自由曲または自作曲のピアノ演奏。楽曲の選択は、クラシック、ポピュラー等ジャンルを問わない（ピアノ独奏のみ。伴奏用音源等は使用不可）。
（注1参照のこと）

(5) 面接

作曲に対する意識、今後、作曲家となるべく努力する姿勢、意識を問う。特別な音楽的能力を有する者は、面接でアピールすることができる。
（注2参照のこと）

(6) 自作曲の評価

自作曲のデモ音源、楽譜（スコア等）を持参し、面接時にアピールすること（注3参照のこと）

注1 ピアノ演奏について

- ① 基本的なピアノ演奏能力を知ることが目的であるため、注意して楽曲を選ぶこと。曲名、作曲者名は、専攻別曲目記入票に詳しく正確に記入すること。
- ② 自作曲のピアノ演奏を行う場合は、(6) 自作曲の評価で提出する曲とは異なる作品にすること。

注2 面接について

アピールしたい受験者は、楽器演奏や音楽制作に携わった作品の映像（動画ファイル）を面接時に提出すること（ライブ、コンサート等の映像も可とする）。複数曲の提出を可とするが、各映像の長さは5分未満とする。また、映像内で受験者本人を確認（本人の姿やクレジット表記）できるものとする。動画ファイルの拡張子はmov または mp4 のいずれかとし、USBメモリに保存して面接当日に持参すること。

《当日の楽器演奏を希望する場合》

ギター、ベース、ヴァイオリン、フルート等の楽器演奏を面接時に希望する場合は、楽器を持参すること。ギターアンプ、ベースアンプは備え付けのものを使用する。演奏を希望する楽器名、楽曲名は曲目記入票に記入すること。電子オルガン等、複数人での移動を必要とする大型楽器の持込みは不可とする。その場合は動画ファイルを提出しアピールすること。

注3 自作曲について

複数曲可。ただし、各曲の長さは5分未満とする。楽曲自体を考察することが目的であるため、録音状態、使用機材等は問わない。楽曲のスタイルは自由だが、楽曲のデモとして十分な状態を満たすこと。

《デモ音源、楽譜の提出について》

- ① デモ音源は、オーディオファイルで用意すること。オーディオファイルの拡張子は wav、aif、mp3 のいずれかとし、USBメモリに保存して面接当日に持参すること。
- ② 楽譜（スコア等）を4部面接時に持参すること。簡易でもよいので製本をすること。視聴後、楽曲の部分的な演奏を指示する場合がある。その場合、基本的に使用する楽器はピアノとする。

指 揮

※一般選抜（B日程）では、募集しません。

入学試験科目

1. 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択）

以下より1つ選択する。

- (1) 大学入学共通テスト 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択。「英語」は筆記とリスニングの双方を課す）
- (2) 本学が行う試験（英語）
- (3) 資格試験※

※以下のいずれかの資格を利用できる

詳細は①一般選抜概要 p. ii を参照のこと。

- ・ケンブリッジ英語検定
- ・実用英語技能検定
- ・GTEC(アセスメント版を除く)
- ・IELTS(Academic)
- ・TEAP
- ・TEAP CBT
- ・TOEFL iBT®

2. 楽 典

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験に合格した者は、本入試での試験を免除する。

3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験に合格した者は、本入試での試験を免除する。

4. 聴 音 旋律聴音（8小節程度）・・・ 各専攻共通1題および専攻別1題

和声聴音 ・・・・・・・・・・・・・・ 大譜表による四声（密集）、8小節程度

[問題例] G dur ト長調 $\frac{2}{2}$ 拍子 8小節



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験に合格した者は、本入試での試験を免除する。

5. 副科実技（ピアノ）

※すべて暗譜で演奏すること

(1) 音階：同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。

ハノン No. 39、または本学指定の音階楽譜（本学ホームページよりダウンロード）のいずれかを使用すること。ハノン No. 39 の場合は、速度は♩=76 程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72 程度以上とする。

- (2) J. S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲（プレリュードとフーガ）
- (3) 古典派ソナタより任意の1曲（第1楽章または終楽章。専攻別曲目記入票に楽章を明記すること。）

6. 専攻実技

- (1) 聴音：旋律（単旋律、二声および四声）の書き取り（四声は木管四重奏の録音による）
- (2) 全ての音部記号を用いた旋律の初見視唱
- (3) 簡単な旋律のピアノ初見弾き歌い
- (4) スコアリーディング（2管編成程度の管弦楽曲）
- (5) 指揮実技
 - (イ) 2管編成程度の管弦楽曲の初見指揮（演奏は2台のピアノによる）
 - (ロ) モーツァルト：交響曲第32番 ト長調 K. 318（演奏は2台のピアノとヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスによる）
 - (ハ) ベートーヴェン：『フィデリオ』序曲（演奏は2台のピアノによる）
- ※ (ロ) (ハ) は暗譜で演奏（指揮）すること。
- (6) 演奏実技（ピアノを含む任意の楽器を演奏。無伴奏。声楽不可）
- (7) 和声（バス、ソプラノ課題「初級程度」1時間）
- (8) 小論文（1時間）
- (9) 口述試問